

キャラクター名 プレイヤー名

紅瀬 飛鳥 (くぜ あすか)

シンドローム	サラマンダー パロール		ワークス	UGN	エージェント	C	カヴァー			
オプション			年齢	27		性別	男			
覚醒	渴望	衝動	闘争		初期侵食率	43 %				
出自	義理の両親		経験	力の暴走		邂逅	腐れ縁			

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	2	0	0			2	行動値	7
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	7
精神	3	1	0	1		5	戦闘移動	12
社会	2	0	0			2	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識:	2		情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: 裏社会	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
【ギルティフレーム】 1+2	RC	8r+1		3		
		0				
【アサルトバーン】 1+2	RC	12r+1		12		暴走時のみ
↑+バーサークセルフ	RC	14r+1				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
コネ: 裏社会	
情報収集チーム	
ストレンジフェイス	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
対抗種	P	N		
固定: 力	P 信頼	N 悔悟		
固定: スイ	P 好奇心	N 不快感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6 残り財産P: 3

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
絶対零度	3		常時	至近	自身	自動		
効果:	暴走時 【精神】のダイス+4[Lv+1]個 (固定)							
紅蓮の憎悪	3		常時	至近	自身	自動		
効果:	暴走時 攻撃力+9[Lv*3] (固定)							
ワイルドファイア	1		常時	至近	自身	自動		
効果:	暴走時 行動値+3[Lv*1] (固定)							
解放の宴	1	6	St	至近	自身	自動	100	
効果:	ラウンド間のあらゆるダイス+5個 飛行状態							
バーサークセルフ	2	2	Ini	至近	自身	自動		
効果:	ラウンド間の命中判定ダイス+2個 暴走付与							
コンセントレイト	2	2	Ma	-	-	-		
効果:	C値-2							
災厄の炎	1	4	Ma	至近	範囲 (選択)	対決		
効果:	攻撃力3[Lv*3] RC射撃							
プラズマカノン	3	4	Ma	視界	単体	対決	100	
効果:	攻撃力15[Lv*5]RC射撃							
不燃体	★							
効果:								
ディメンションゲート	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

「最大火力だ。燃え尽きなァ!!」

UGN武上支部のエージェント
 今では制御下になっているが、幼い頃に力が暴走し、施設を一棟を焼き尽くしたことがある。
 自分の力のみを信じ、力そのものに固執している。
 伊比津美摘とは旧知の仲。

全くやる気がなく、常に欠伸を繰り返している程のめんどくさがり屋。
 退屈な日々を払拭してくれる強者と戦えることを望んでおり、またそれに飲びを感じる戦闘狂だが、望むような相手がいない場合は、常に他人任せで口癖のように「めんどくせえ」「お前さんだけで充分だろ」と言う有様で場合によっては任務を中途半端に投げ出して帰ろうとする始末。

伊比津を含む、彼を知っている人は昔は今ほどではなかったと口を揃える。

レネゲイドウィルスをやく力を持っており、オーヴァードを殺す事に長けている。
 強者と出会う可能性が高いことや、能力の適性も相まって裏の仕事を引き受けることが多い。
 ———当然、ジャーム化したUGN所属のオーヴァード殺しも。

ストレンジフェイスとの相性が「良すぎる“為、レネゲイドを活性化させる（暴走状態）と白髪と化し全身にタトゥーが出現して眼球が赤黒く染まり、溢れ出るレネゲイドが黒い炎を放つようになる。

蒼蒼計画
 もう一人の旧友・東功一の言葉を思い出した。